

平成30年度 上伊那圏地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第2回 グループホーム 部会	参加者数	25人	会場	伊那市 福祉まちづくりセンター 2階 大会議室
	日時	平成30年9月26日(水) 10:00 ~ 11:50				
主 テ ー マ	<p>1 講話:「生命の保全 ～地域防災マップから損害を最小限に～」</p> <p>2 グループワーク:「防災マップを読み取ろう」</p> <p>3 その他</p>					
主 な 意 見 な ど	<p>1 について(講師:上伊那広域消防本部 伊那消防署 小林啓志 氏)</p> <p>○グループホームの防災を考える研修の一環として、標記演題による講話をお聴きした。概要は、次のとおり。</p> <p>(1) 災害を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害には、火災、地震、風水害、その他(交通事故など)がある。 ア 火災 <ul style="list-style-type: none"> ・火災時には有毒ガス(一酸化炭素等)が発生する→ハンカチを口や鼻にあて、姿勢を低くし、素早く避難。 ・火災警報器は2階廊下と寝室に設置が義務づけられている。すぐに気づき、素早い行動が求められる。 イ 地震 <ul style="list-style-type: none"> ・東海地震(東南海地震)は30年の間に80%の確率で起こると言われている。いつ起きてもおかしくない。 ・地震の起きるメカニズム、地震の種類、震度とマグニチュードの違い等(略)。 ウ 風水害 <ul style="list-style-type: none"> ・地震と違い予測が可能。いち早く情報収集し、まずは支援者(自分)の安全を第一に考えてほしい。 ・雨の降り方や河川水位情報などは刻々と変化する。状況に応じた臨機応変な対応が必要。 ・雨量情報、注意報・警報の他、洪水予報、土砂災害警戒情報などさまざまな情報が出されるので留意する。 <p>(2) 災害に備える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の備え、共通の備え、要援護者・要支援者等の準備、支援者の準備、それぞれが必要となる。 ア 平常時に考えておくこと <ul style="list-style-type: none"> ・自分の命は自分で守る(自助)が基本。自助、近所、共助、公助。自助の次に「近所」づきあいが大切になる。 ・1人1人が意識を高める。要援護者も避難訓練等で意識を高める。様々なケースの想定も重要である。 イ 支援者自身の備え・意識の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・レジリエンス:「逆境から素早く立ち直り、成長する能力。困難な状況にもしなやかに適応し生き延びる力」。 ・レジリエンスの中でも「つながり」の要素は極めて重要。どこにどういいう人がいてどういいう支援が必要か理解してもらうことが支援者の一番の仕事。要援護者の強み・弱みを把握して、周りに伝えることが大切になる。 ウ 災害への備えで大切なこと <ul style="list-style-type: none"> ・事前の話し合い、命を守るための個人情報の利用、ファミリープランの作成、行事に参加するなど地域との関係維持、当事者団体や支援者グループとの関係構築、薬剤・器材の備蓄、避難訓練への参加等。 エ 支援者としての準備 <ul style="list-style-type: none"> ・レジリエンスの向上、避難訓練の実施、地域ぐるみで取り組む体制づくりを考える必要がある。 ・地域ぐるみで取り組む体制には、フェンス・電柱に避難場所の方向を表示、土砂崩れ等危険地点の表示、家族で話し合って避難場所を決めておく、災害時要援護者の支援体制作り、避難したことを示す表示の実施、挨拶等、日頃からの近所づきあいによる関係づくり等が考えられる。 <p>2 について(参加者全員)</p> <p>(1) グループワーク</p> <p>○参加者が勤務するグループホーム所在市町村ごとのテーブルに分かれ、当該市町村の防災マップを実際に見ながら、自分が担当するホームの位置、避難場所や避難所(一般・福祉避難所、専門施設)の位置、避難経路や経路上の危険個所などについて確認し、付箋やマーカーで印をつけながら、グループワークを行った。</p> <p>(2) まとめ(講師より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災マップはあくまで想定されるシナリオの1つ。常に最善を尽くすことを意識する。 ・行政、支援者、要援護者の三者で、災害時、どう対応するのか、1人1人話をしておくことが重要となる。 ・要援護者の障がい特性やどういいう支援が必要なのか、まとめたものを作成し、行政と共有しておくことも大切。 ・まずは自分の身を守る(→次の支援行動がとれる)。災害時、一番最初に行動できる人になってほしい。 <p>(3) お礼のあいさつ(辰野アドバイザー)</p> <p>3 について(事務局より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本消防設備安全センターの防災マニュアル、きりりあで保管するので、閲覧等、希望があれば、ご連絡を。 ・信州駒天駅伝大会のお知らせ H30.10.27(土)開催。グループホームの皆さんもぜひご参加ください。 ・映画「やさしくなあと」上映&西村信子氏講演会のお知らせ H30.11.11(日) かんてんばば西ホールにて。 ・第1回部会の議事録とアンケート結果について、欠席した所属に郵送した。ご参照ください。 					
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に備えるために必要なことや災害時、支援者に求められる行動について、理解を深めることができた。 ・防災マップを見ながら、避難所の位置確認等を実際に行ってみることで、防災への意識を高めることができた。 					
次 回	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細については、後日お知らせする。 					